

怪異名：

八尾比丘尼

属性：

実体

破滅者／元凶：

本人



存在点

初期値

現在値

基本攻撃

【肉体】

▼ 原型

▼ 穢れ

	名称	タイミング	対象	回避／禁則
生	執拗な捕食	先制	全員	【肉体】 代替、目標値上昇、援護 (『トコヤミメイズ』 143 ページ)
半人	超人	常時	怪異	なし — (『クラヤミクライン』 170 ページ)
水	流れ移ろう水面	様々	怪異	様々 様々 (『クラヤミクライン』 162 ページ)
	名称	タイミング	対象	回避／禁則
	名称	タイミング	対象	回避／禁則

設定：

「人魚の肉」を食べてしまったことにより不死となった女性——その伝説は、全国各地で語られている。「八尾比丘尼」とは、怪異を喰らい、自ら怪異と化したある破滅者達の「総称」である。もちろん、ごく普通に怪異を口にただけで、怪異になれるなどということはない。それには確実に、何らかの特殊な儀式が必要であるはずだが——儀式の対象は「女性」でなければならないこと。「八尾比丘尼」の中でも特別な立場にある者が、歴史の陰で度々暗躍し、仲間を増やしていたこと。その2点以外、詳細は謎に包まれている。不死者になるとは、死という最後の逃げ道すら失うことだ。その先にあるのが安寧なのか、絶望なのか——それは怪異として長い時を経た者にしか、決してわからないのだろう。